日本語に見る日本人の特性

三世代笑顔プロジェクト1周年に寄せて…田邉　拙

Gジャパンフロンティア協会・副理事長　http://www.gfrontier.com/g-japan

言語は、それを使う民族の性格を最もよく表した文化です。日本語は極めて特殊な性格をもった言語です。日本語を通じて日本人の性格と思考様式を明らかにしてみましょう。

家族のような情で結ばれた組織を共同体と言います。日本人の組織はすべて共同体の性格を持っています。例えば、仲良しグループ、同窓会、地域、趣味のサークル、会社、国等です。人々は、そのような組織の中で、お互いに、親しさによる距離、年齢、社会的な地位などにより、異なった関係感をもっています。その異なった関係により日本人は異なった言葉を使います。敬語、丁寧語,謙譲語などです。このような用語を持っているのは日本語だけです。例えば、1人称では俺、僕、私、2人称ではお前、君,あなた、など。英語にはIとYouしかありません。

人間の見方に役割的人間観というのがあります。人間は沢山の仮面を持っていて、場所と役割に応じて面を付け替えるというのです。日本人はその仮面を沢山持っています。子に対する親の面、夫婦の面、会社の上司に対する面、部下に対する面、友達に対する面等です。日本人は面を付け替えると言葉が変わります。人称だけでなく、述語も変わるのです。手をあげろ、手をあげて、手をあげなさい、手をあげてください、手をあげてくれますか、手をあげてくれませんか、手をあげてもらえませんか、手をあげてくださいますか、手をあげてくださいませんか、手をあげていただけますか、手をあげていただけませんか、手をあげていただけませんでしょうか（森本順子‘日本語の謎を探る’より）等です。つまり日本人とは、常に人との関係性の中で存在しているのです。

次に面白いのは、日本語は、同じ言葉でも状況によって異なった意味をもつことです。例えば「結構です」という言葉は、状況によって、‘はい、頂きます’‘いいえ、いりません’と両方の意味を持ちます。つまり、言外の意味があり、言葉だけでは会話が完結しません。日本的な礼儀作法や感覚は、家庭生活の中での日常的な接触により、体で感じて学び取るものなのです。

更に、日本語では受け身で表現することが多いのです。‘泥棒に入られた’‘馬鹿にされた’‘叱られた’などです。外国語にはこのような表現の仕方はありません。‘泥棒が入った’というと泥棒が悪いということを強調していますが、‘泥棒に入られた’というと自分も悪いという反省の意味が入っています。日本人は常に人との関係の中で自分があり、人の気持ちを慮り、謙虚に自分を反省する性格をもっています。日本人だけの世界では分かりませんが、外国に行って違った文化と接するとそのような違いが良くわかります。西欧人は、人との関係で自分をぶれさせず、自己を主張します。だから欧米の言葉には敬語がないのです。これはどちらが良いかということではなく、そのような違いがあることを知ることが、これからの時代では、大事なことなのです。

現在は家庭の崩壊により道徳が乱れ、嘗て日本を訪れた外国人が絶賛した、日本人の親切,誠実、礼節、繊細な心配り、自然を愛でる独特で細やかな美意識が失われつつあります。

「孫と留学」の実践結果から、一年前、カナディアン　アカデミー　セタガヤの難波三津子さんが、「3世代笑顔プロジェクト」を立ち上げられました。このプロジェクトは家族の良さ、世代間の交流により日本的な感性を取り戻す再発見の運動に広がる予感がします。

現在の荒廃した日本の「世直し運動」として、ユニークなプロジェクトの今後のご発展を祈ってやみません。

知っていると便利な英語　Letter

Take away my first letter; take away my second letter; take away all my letters, and I remain the same. What am I ?

（私の第一の文字(手紙)を取り去りなさい。私の第二の文字(手紙)を取り去りなさい。私の文字（手紙）を全部取り去りなさい。それでも私は元のままです。私は何でしょうか？）－The postman（郵便配達人）

スマイルクローバー2010年第2弾イベント

三世代笑顔プロジェクト

父の日イベント

～おとうさん、おじいちゃんへ～

とき：6月20日(日) 父の日

ところ：東京都世田谷区、「食と農」の博物館

Smile Clover 三世代笑顔プロジェクト 5つの育む学ぶ

6月20日「父の日」に、
【第1部】平松庚三さんのお話に触発され、
【第2部】読み聞かせのマスターになって、アクティブなおとうさん・おじいちゃんになりませんか。会場となる東京農業大学「食と農」の博物館は、老若男女にとって魅力的な会場です。大人も子どもも、いっぱい遊べます。
ぜひご家族皆さまでのご参加をお待ちしております。

平松庚三

小僧com株式会社は、「50、60はハナタレ小僧。30、40はヨチヨチ歩き」をキャッチフレーズに、元気な大人の豊かな後半戦を応援するインターネットコミュニティ小僧SNS村を運営。世代を超えた、価値ある出会いと交流の場を提供している。

植村志保里

JPIC読書アドバイザー。取次会社勤務、出版社営業をへて、現在は本の編集に携わる。社会人になってから絵本の面白さに目覚め、子どもや大人たちにつたえるための活動を始める。毎月最終日曜日、「読書の会」の仲間とともに、飯田橋駅ビル・ラムラにて「区境ホール・おはなし会」をビル・ラムラにて「区境ホール・おはなし会」を運営している。

お申し込みはハロードリーム実行委員会ホームページまたはEメールにて

※お申し込みの際は、お名前、ご連絡先、参加人数（大人、子ども）をお伝えください。

tel:03-6240-0609　fax:03-3814-6776

＜URL＞ http://hello-dream.com/

＜E-mail＞ info@hello-dream.com

ジョーク

皮肉をこめた言い方

That’s a fine question to ask me.「私に頼むなんて立派だよ」

What a nice thing for you to ask him！　「彼によくそんな事を頼めるな」

It’s 3 AM！What a nice time of the night to call.「夜中の3時だ。何もこんなに遅く電話をかけなくても良いだろう」

Noriko Tomioka

England便り　富岡典子

English Country House Party

Dear Michi

添付のEnglish Country House Party が新しい企画です。昨年、お友達を日本から呼んで、試してみましたが、おそらく、日本人は、もうひとつの「イギリスのカントリーライフ」の方で、テーブルマナーを学び、ディナーパーティーでお話することを準備してから参加する方が良いかも知れないなんて話しました。準備は、日本にいる間に始めるという企画にもなるかも知れません。

「イギリスのカントリーライフ」のほうも、名前は決まっていません。私のブログの名称です。お時間があるときに、覗いて見てみてください。　http://ukcountry2.exblog.jp/

友人のご夫妻ですが、おもてなしが好きな方たちで、奥様は、そろ そろ馬からリタイヤし、マナーの教室でもと考えています。

ライフスタイルホームステイは、初めて10ヶ月ほどになります。20代後半から30代の女性に人気の企画だと思います。

「イングリッシュカントリーハウスパーティー」は、キャロラインも他の「貴族」を紹介してくれると言っていますし、私も他にもコンタクトがありますので、今後増やしていくことも可能です。

Ryuhsuke Yoda

England便り　依田龍介

On 7th March, I joined Norwich Environmental weekenders.

We gathered at Norwich

Cathedral at 10:00am. We rode in the van and went to Thursford. It took us an hour to get there. I enjoyed looking at the rural views and we arrived at Thursford at 11:00. On arriving there, we started preparing, we walked into the forest. After a while we reached the destination. There were logs and branches which had been cut beforehand. I met Steve and chatted with him. He taught me how to cut branches and pile logs with tools. We started cutting branches and carried them to burn. We kept working for about two hours. I’ve cut a few thick logs with a saw. We had a break and drank tea or coffee and ate lunch. They gave me a few biscuits and a piece of the cake which Steve had made. After that, we started working again. It took three hours to finish. We burnt all the piles we had cut. Some people took some coal. We went back to Norwich and said ‘goodbye’ at Norwich Cathedral. I wanted to join them again but unfortunagely, I couldn’t because I had a cold and had to stay at home.